

数寄屋からスタートして、簡素化された自然美を究めつづける。

茶室

大美建築は、「細く」「薄く」「低く」この3つの基本を守りつつ、現代風にアレンジした新しい茶室建築にも取り組んでいます。

大美建築は、昭和13年に数寄屋建築から営業を始めました。主に茶室に使われる数寄屋建築。自然の材料である土、木、草、竹を用い、装飾を排除し極限にまで簡素化されたデザインに特徴があります。近くにある材料で作り上げた部屋には不思議と心がなごむ雰囲気漂います。

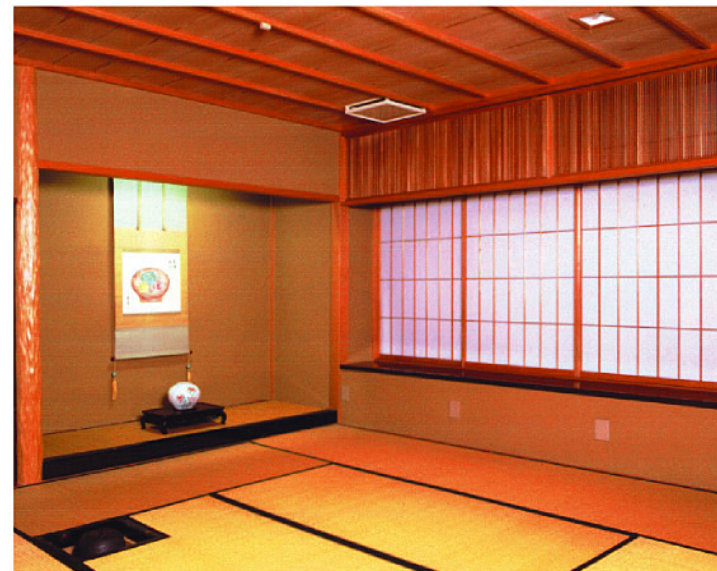
茶室は座つてみるもの。腰を下ろしたとき、包まれる安心感と同時に、解き放たれる開放感も味わうことができます。これがまさしく「数寄」の心。



今西邸: 茅葺き屋根が味わい深い茶室。(施工: 大美建築)

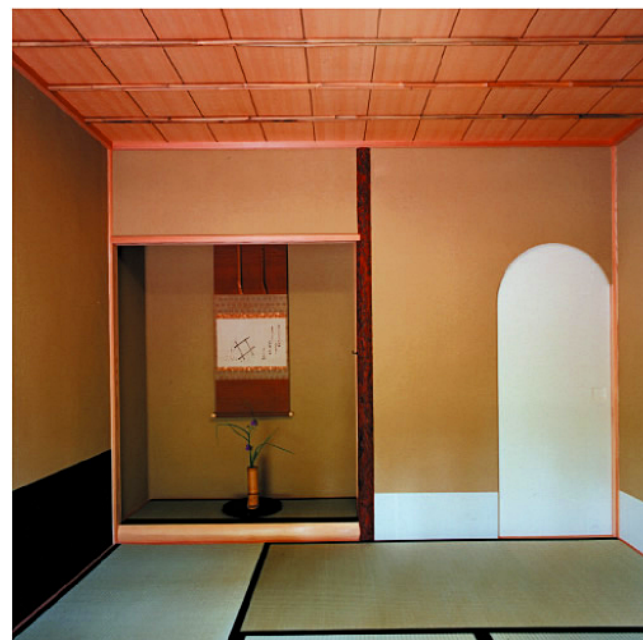
今西邸: まさしく、わびとさびの世界。(施工: 大美建築)

今西邸: 古来より言い伝えられる数寄屋の素材(土・木・竹・草)を使った茶室。(施工: 大美建築)



向井邸: 透かしの欄間・椋の床柱・春慶塗りの天板が特徴。(設計施工: 大美建築)

向井邸: ビル内の居宅にあり、10畳の広さを持つ茶室。(設計施工: 大美建築)



辻本邸: シンプルの極地を具現化した平田流の茶室。(設計施工: 大美建築)



茶室